発見福祉新聞

福祉体験学習！

今回、九月十日に、三中で行われている「三中ふくしプロジェクト」の一環として三中一年生241人は、11つの項目から選び体験講座を行いました。ぼくは、その中でもデイジー図書を選びました。この講座では、講師の南條明さんに来ていただき、デイジー図書についていろいろなことを教えてもらいました。最初は分からないことだらけでしたが、実際に作っている人にしか分からないことや体験してみないと分からないなど多くのことを学ぶことができました。

※南條さんの講義を受けている様子（一番右・南條明さん）

素朴な疑問 デイジー図書って何？

対象 発達障がい（学習障がい、注意欠陥多動性障がい）知的障がい、上肢障がい、視覚障がい、ディスレクシアなどのために通常の書籍を読むことが困難な方。

メリット 文字やルビ、さし絵も音声に連動。読みたいところから読めること（ランダムアクセス）も可能。

心を豊かに DAISY図書

1930年代（アメリカ）～ 現代 未来

録音図書からデイジー図書へ

歴史 もともとは、視覚障がい者に音訳して録音して配布していました。そこから、大量の文書を一枚に収めることができるCDへの録音に変化しました。そして今では、デジタル化により、文章と音声が連動して再生されるようになりました…

デイジーの略

- **D** デジタル digital
- **A** アクセシブル accessible（便利な）
- **I** インフォメーション information（情報）
- **SY** システム stem

誰が作るの？

多くの人がデイジー図書は、会社や国が作っていると思います。しかし実は、その多くをボランティアの方々の協力で作られているのです。そして、教科書などの国が提供する本のデイジー化は、全てボランティアの方によって作られているのです。

どんな作品が…

今では、大型の書店の本はほとんどがデイジー化されています。そして、月刊誌や週刊誌などの本もデイジー図書化しているのです。しかし、書籍などのデイジー図書は、音声が機械音だから人の声特有のなじみのある音ではないので、注意が必要です。

本は読むだけじゃない 4コマ

実際に体験した

ぼくも実際に、「ごんぎつね」の作品を読んで、その音声を使ってデイジー図書を作成しました。誰にでも聞きとってもらえるようにメリハリをつけて読んだりできるだけはっきりとした声をだしたりするなどの工夫をしました。しかし録音したものを自分の耳で聞いたら、思っていた声ではなく聞いていて心地よいものではなかったので、改めてデイジー図書で使う音声の大事さに気付かされました。又、間違えずに読むための集中力が必要で作成の難しさを知りました。

※実際に音声を吹きこんでいる様子（自分）

編集後記

ぼくは今回、南條明さんにとても貴重な体験をさせていただきました。ぼく自身、デイジー図書については初めてでしたが、南條さんの具体的な説明により、とても充実した一時間となりました。一番驚いたのは、デイジー図書の多くがボランティアの方々によってまかなわれているということでした。ぼくも将来は、ボランティアをして、人々の生活を豊かにしていこうと思いました。そして、この新聞をきっかけとしてデイジー図書に興味を持ってくれるとうれしいです。

発行日 令和元年20日
発行者 中雲6下 三組 明悟
発行所 1年山